

現代アートコレクター

利岡誠夫さんが、

30年かけて集めた宝物。

きつとみつける、

「みるオシヤレ」のエッセンス。



2018.12月8日[土] — 2019.1月20日[日] 10:00-19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで  
※入場は閉館の30分前まで

大分県立美術館 3階 展示室B

| 観覧料 | 一般 / 300 (250) 円 大学生・高校生 / 200 (150) 円

※中学生以下は無料 ※ ( ) 内は20名以上の団体料金

※大分県芸術文化友の会 びび KOTOBUKI 無料 (同伴者1名半額)、TAKASAGO 無料、UME 団体料金

※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者1名は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。

OPAM 大分県立美術館  
Oita Prefectural Art Museum

# 現代アートの宝箱

Treasure box of Contemporary Art

OPAM 利岡コレクション



1



2



3



4



5



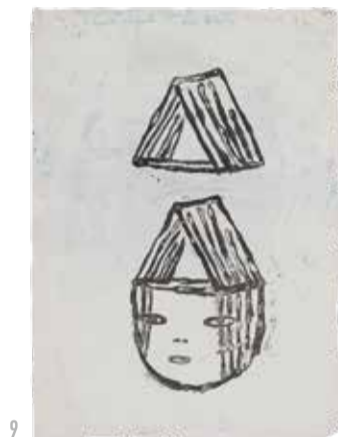
6



7



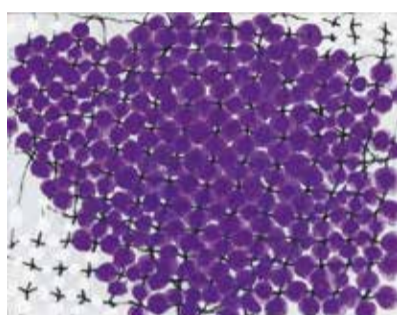
8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



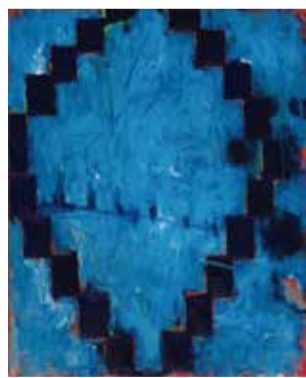
25



26



27



28



29



30



31



32

# 現代アートの宝箱

## OPAM 利岡コレクション

関西を中心に現代美術の名コレクターとして知られた利岡誠夫さん（1926～2018）。製薬会社に研究職として勤務しながら、全国各地のギャラリーを巡り、およそ30年かけて現代美術や民俗資料を集めました。

それらは、アートに対する純粋な眼差しとともに築き上げられた「現代アートの宝箱」。フタを開けてみると、抽象、ポップ、ミニマリズム、コンセプチュアルと、実にヴァリエーション豊かです。作品は自宅のお茶の間で飾られ、暮らしのなかで愛で楽しまれてきました。

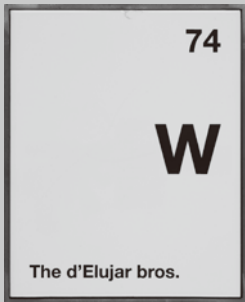
2013年、コレクションは大分県に寄贈されました。当館では、来館者の皆さまに親密感をもって鑑賞いただけるよう、開館以来2階の情報コーナーで、年に数回展示替えしながらご紹介してきました。

本展では、利岡コレクションの全貌を紹介し、時代やジャンルを超えた幅広い視点からご覧いただくとともに、作品と作品が奏でるハーモニーをお楽しみいただきます。

また、新薬を開発する化学者であった利岡さんは、アートについても研究熱心。作品とともに寄贈された画集や展覧会カタログなどから、利岡さんが作家の活動に丁寧に目を配り、同時代の美術の動向に常に関心を持っていたことが分かります。これらの資料も含めて、利岡コレクションの魅力を引き出します。



33



34



大分県立美術館 2F 情報コーナー

### トークイベント talk event

12月8日(土) 13:30-15:00

定員 60名 参加費無料 / 要事前申込

会場：大分県立美術館 3階 ホワイエ

対談 岩澤有徑さん(現代美術家) × 新見隆(大分県立美術館館長)

現代美術家であり、利岡誠夫さんと大分県との橋渡し役となった岩澤有徑さんに、寄贈の経緯や利岡さんの人となり等を伺いながら、コレクションの特徴を紐解いていきます。

申込み方法 参加ご希望の方は、メールまたは電話にてお申し込みください。

メールの場合：app@opam.jp へ【件名】に「利岡展トークイベント」【本文】にお名前・ご連絡先のお電話番号をご記入の上、お送りください。  
電話の場合：097-533-4500 まで、お名前、ご連絡先のお電話番号をお伝えください。

### ギャラリー・トーク gallery talk

予約不要 ※ 展覧会観覧券が必要です

2018

12月16日[日] 14:00-15:00

12月28日[金] 16:00-17:00

2019

1月13日[日] 14:00-15:00

- 佐々木 愛《Kee》2008年
- 菅井 汲《Wind, Sonne, Sugai》1988年
- イクムラレイコ《ローズ色の中をブルーの地平線に向かって》1995年 ©VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2018, C2514
- タカノ 綾《無題》2002年 ©2002 Aya Takano/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.
- シュテファン・バルケンホール《untitled 10-10》2010年 ©Stephan Balkenhol
- 舘島 伸彦《small window #2》2005年
- 青木 陵子《つながりもの》2000年 ©Ryoko Aoki
- スージー甘金《Kirishima》1988年
- 奈良 美智《O.T.》1992年 ©Yoshitomo Nara
- 太郎千恵蔵《アモラス》2002年
- 中西 夏之《白、紫、黒 菱形 S.f.f-2》2009年
- ホリー・ファレル《Children's Books》2009年
- 小川 信治《PERFECT SOUVENIR KRAKOW》2008年
- O JUN《家》1997年 ©O JUN
- カチーナ人形
- 四谷 シモン《天使の羽》1992年
- 設楽 知昭《海之光》2004年
- イクムラレイコ《考える少女》1996年 ©VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2018, C2514
- 岩澤有徑《No.010612》2012年
- 居城 純子《N35.41.44 E139.38.00》2004年
- 丸山 直文《無題(少年)》2000年
- 桑原 正彦《新しい街で》2010年 ©Masahiko Kuwahara
- 浅野 弥衛《作品》1968年
- 碓井 ゆい《チョコレートの古着「ワンピース」》2006年
- 丸山 直文《無題-Berlin》2000年
- 坂井 淑恵《うち》2012年
- 鎌田 仁《作品名不詳》2007年
- 辰野 登恵子《Work 89-P-32》1989年
- 吉村 大地《作品名不詳》2005年
- 杉戸 洋《STAGE A》1997年 ©Hiroshi Sugito
- 青木 野枝《untitled》1992年
- 藤本 由紀夫《PACKED DISK 1981-1992 OLIVIER MESSIAEN / QUATOUR POUR LA FIN DU TEMPS SIDE 1》1992年
- 田中 朝子《スプーン・フォーク／ノボル》2000年/1998年
- サイモン・バターソン《Fragment from I Quattro Formaggi II》1993年

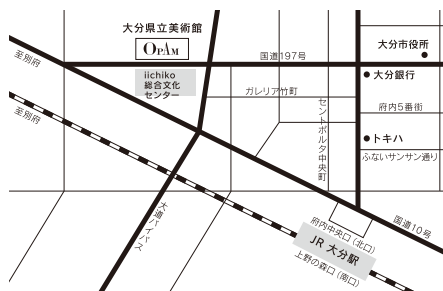
## 現代アートの宝箱

### OPAM 利岡コレクション

会期：2018年12月8日(土)～2019年1月20日(日)  
会場：3階 展示室B  
時間：10:00～19:00  
※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)  
休展日：なし

主催：大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館  
共催：大分合同新聞社  
後援：大分県、大分県教育委員会、NPO 法人大分県芸術文化振興会議、西日本新聞社、NHK 大分放送局、エフエム大分、大分ケーブルテレコム株式会社

チケット(前売券・当日券) 販売場所：大分県立美術館、iichiko 総合文化センター 1F インフォメーション、大分合同新聞社本社受付・同プレスセンター、トキハ会館 3F プレイガイド、エトウ南海堂、NPO 法人大分県芸術文化振興会議、ローソンチケット(L83323)、チケットぴあ(P769-411)



### アクセス access

〒870-0036 大分市寿町2番1号  
JR 大分駅府内中央口《北口》から徒歩15分

### お問い合わせ contact

大分県立美術館  
TEL : 097-533-4500  
http://www.opam.jp

